# ISE 3.3およびStealthWatch 7.5.1でのANCの設定

## 内容

はじめに

前提条件

使用するコンポーネント

<u>背景説明</u>

<u>ネットワーク図</u>

段階的設定手順

確認

<u>トラブルシューティング</u>

<u>隔離されたエンドポイントが認証を更新しないポリシー変更後</u>

問題

考えられる原因

解決方法

IPアドレスまたはMACアドレスが見つからない場合にANCOperationsが失敗する

#### はじめに

このドキュメントでは、Cisco ISE®バージョン3.3およびStealthwatchでのRapid Threat Containment(Adaptive Network Control)の設定について説明します。

#### 前提条件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Identity Services Engine (ISE)
- Platform Exchange Grid(PxGrid)
- セキュアネットワーク分析(Stealthwatch)
- 迅速な脅威の抑制(Adaptive Network Control ANC)

このドキュメントでは、ANC対応のpxGridを使用して、Cisco Identity Services Engine(ISE)がSecure Network Analytics(Stealthwatch)と統合されていることを前提としています。

## 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとバージョンに基づくものです。

• Cisco Identity Services Engine(ISE)バージョン3.3

- Secure Network Analytics(Stealthwatch)7.5.1
- Catalyst 9300

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな(デフォルト)設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

#### 背景説明

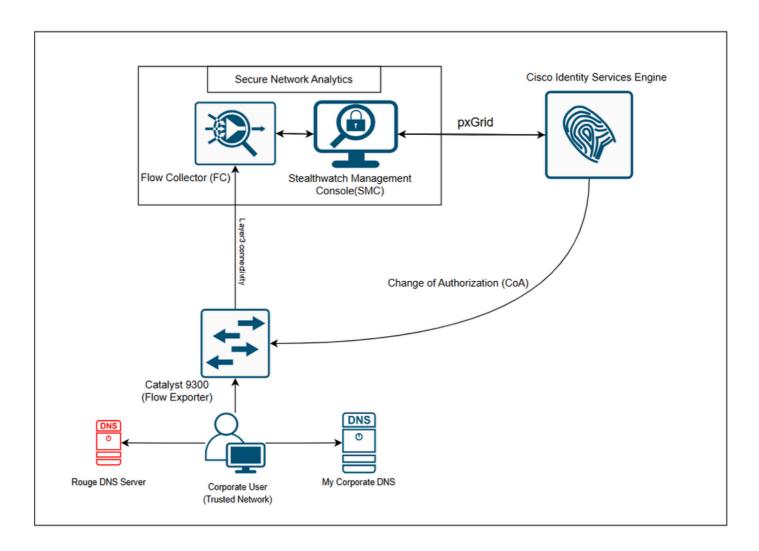
Cisco Secure Cloud Analytics (現在はCisco XDRの一部)は、pxGridを使用してCisco Identity Services Engine(ISE)からユーザ帰属データを取得できます。この統合により、Secure Cloud Analytics Event Viewerでユーザアクティビティレポートを作成できます。

Secure Network Analytics(以前のStealthwatch)とCisco Identity Services Engine(ISE)を組み合わせることで、組織は360°ビューを取得し、脅威に迅速に対応し、成長するデジタルビジネスを保護できます。Secure Network Analyticsが異常なトラフィックを検出すると、アラートを発行して、ユーザを検疫するオプションを管理者に提供します。pxGridにより、Secure Network Analyticsは検疫コマンドを直接Identity Services Engineに渡すことができます。

この例では、企業のDNSサーバを利用してインターネットの脅威から保護する方法について説明します。目的は、内部ユーザが外部DNSサーバに接続したときにトリガーされる、カスタマイズされたアラートメカニズムを確立することです。この取り組みは、有害な外部サイトにトラフィックをリダイレクトする可能性のある不正なDNSサーバへの接続をブロックすることを目的としています。

アラートがトリガーされると、Cisco Secure Network AnalyticsはCisco ISEと連携し、PxGrid経由で適応型ネットワーク 制御ポリシーを使用して、不正なDNSサーバにアクセスしているホストを検疫します。

## ネットワーク図



#### 図に示すように:

- 企業ユーザは、IPフローをエクスポートし、フローコレクタにデータを送信するように設定 されたC9300スイッチに接続されています。
- 同じ社内ユーザが、社内DNSサーバを使用するように設定されています。
- Flow CollectorはStealthWatch Management Console(SMC)と統合
- StealthWatch Management Console(SMC)は、PxgridとISEを介して統合されます。

#### 段階的設定手順

1. NetFlowを使用してフローをモニタおよびエクスポートするようにスイッチを準備します。

Cisco IOS® XE 17.15.01を実行するC9300スイッチの基本フロー設定

```
flow record SW_FLOW_RECORD

description NetFlow record format to send to SW

match ipv4 tos

match ipv4 protocol

match ipv4 source address

match ipv4 destination address

match transport source-port

match transport destination-port

match interface input
```

```
collect interface output
 collect counter bytes long
 collect counter packets long
 collect timestamp absolute first
 collect timestamp absolute last
flow exporter NETFLOW_TO_SW_FC
 description Export NetFlow to SW FC
 destination 10.106.127.51
                           ! Mention the IPv4 address for the Stealthwatch Flow Collector
 ! source Loopback0
                              ! OPTIONAL: Source Interface for sending Flow Telemetry (e.g. Loopba
 transport udp 2055
 template data timeout 30
flow monitor IPv4_NETFLOW
 record SW_FLOW_RECORD
 exporter NETFLOW_TO_SW_FC
 cache timeout active 60
 cache timeout inactive 15
vlan configuration Vlan992
 ! VALIDATION COMMANDS
 show flow record SW_FLOW_RECORD
  show flow monitor IPv4_NETFLOW statistics
```

設定が完了すると、C9300はフローコレクタにIPフローデータをエクスポートできるようになります。フローコレクタは、このデータを処理してStealthWatch Management Console(SMC)に転送し、分析とモニタリングを行います。

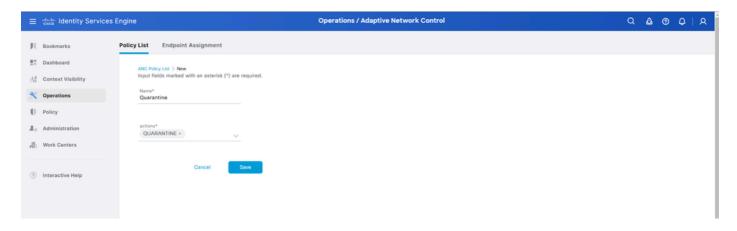
2. Cisco ISEのEnableAdaptive Networkコントロール

show flow monitor IPv4\_NETFLOW cache

collect transport tcp flags

ANCはデフォルトで無効になっています。ANCはpxGridが有効になっている場合にのみ有効になり、管理者ポータルでサービスを手動で無効にするまで有効のままになります。

Operations > Adaptive Network Control > Policy List > Addの順に選択し、ポリシー名にQuarantine、アクションにQuarantineと入力します。

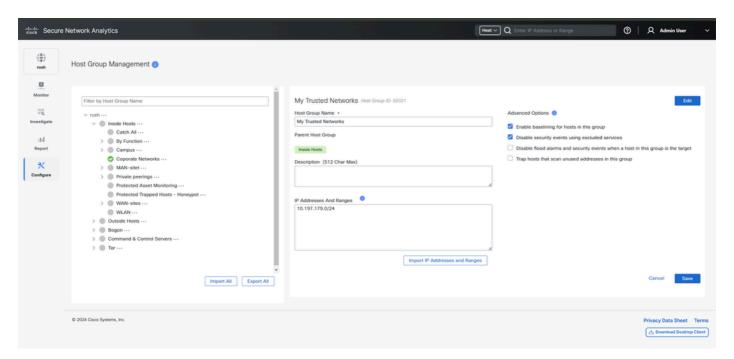


3. 迅速な脅威の封じ込めに備えて、イベントトリガーおよび応答管理のSecure Network Analyticsを設定します。

ステップ1:SMC GUIにログインし、設定>検出>ホストグループ管理に移動します。内部ホストの横にあるアイコン(...)(省略記号)をクリックし、ホストグループの追加を選択します。

この例では、Inside Hostsという親ホストグループの下に、My Trusted Networksという名前の新しいホストグループが作成されています。

通常、このネットワークは、DNS使用率を監視するためにエンドユーザマシンに割り当てることができます。

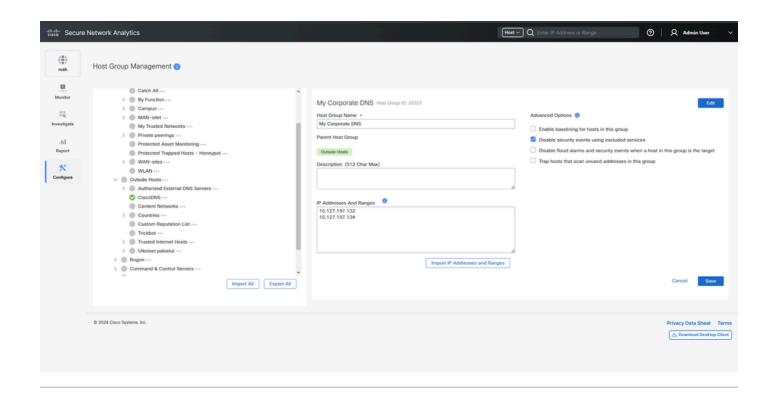


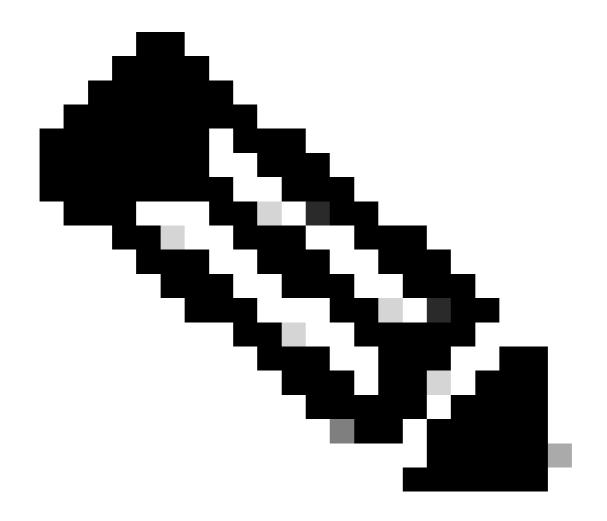


注:この例では、IPサブネット10.197.179.0/24がローカルエリアネットワーク(LAN)サブネットとして使用されています。これは、ネットワークアーキテクチャによって実際のネットワーク環境が異なる場合があります。

ステップ2:SMC GUIにログインし、Configure > Detection > Host Group Managementの順に選択します。Outside Hostsの横にある(...)をクリックし、Add Host Groupを選択します。

この例では、Outside Hostsという親ホストグループの下に、My Corporate DNSという名前の新しいホストグループが作成されます。

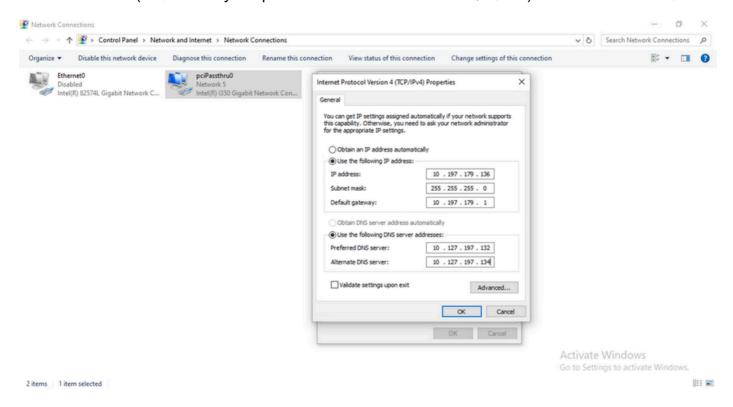




注:この例では、IP 10.127.197.132と10.127.197.134がエンドユーザが使用する目的の

DNSサーバとして使用されます。これは、ネットワークアーキテクチャによって実際のネットワーク環境が異なる場合があります。

デモンストレーションに使用するテストラボPCは、スタティックIP 10.197.179.136(作成した My Trusted Networksホストグループに属する)とDNS 10.127.197.132および 10.127.197.134(作成したMy Corporate DNSホストグループに属する)で設定されています。



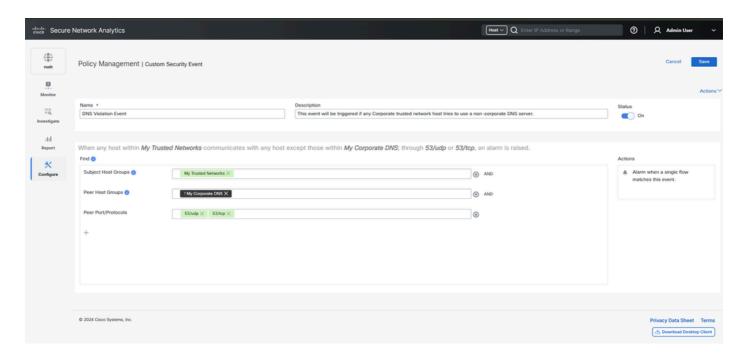
ステップ3:内部ユーザが外部DNSサーバに接続したときに検出するようにカスタマイズされたアラートシステムを設定し、悪意のある外部サイトにトラフィックをリダイレクトする可能性のある不正なDNSサーバへの接続をブロックするアラームをトリガーします。アラームがアクティブになると、Cisco Secure Network AnalyticsはCisco ISEと連携し、PxGrid経由でAdaptive Network Control Policy(ACP)を採用することで、不正なDNSサーバを使用しているホストを分離します。

Configure > Policy Managementの順に移動します。

次の情報を使用してカスタムイベントを作成します。

- 名前:DNS違反イベント。
- Subject Host Groups: My Trusted Networks(信頼できるネットワーク)。
- ピアホストグループ(Pホストグループ):(社内DNSではありません)。
- ピアポート/プロトコル:53/UDP 53/TCP

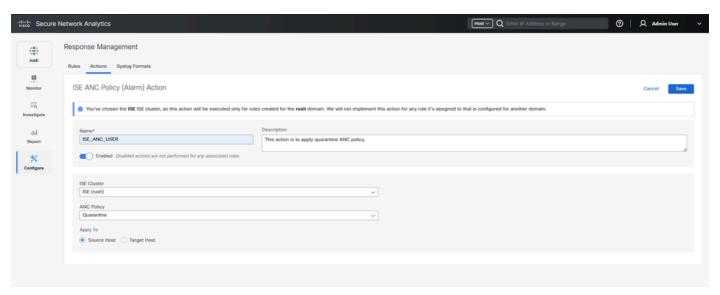
これは、My Trusted Networks(ホストグループ)内のホストがMy Corporate DNS(ホストグループ)内のホスト以外のホストと53/upまたは53/tcp経由で通信するときにアラームが発生することを意味します。



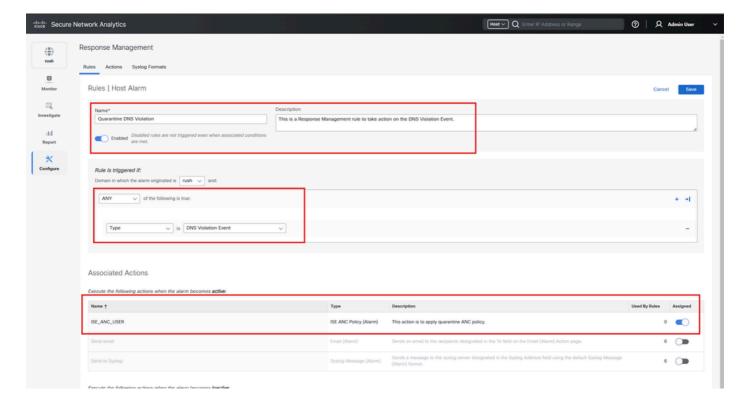
ステップ4:実行する応答管理アクションを設定します。このアクションは、作成後に応答管理ルールに適用できます。

Configure > Response Management > Actionsの順に移動し、Add New Actionをクリックして、ISE ANC Policy (Alarm)を選択します。

名前を割り当て、通知する特定のCisco ISEクラスタを選択して、不正なサーバへの違反または接続に対する検疫ポリシーを実装します。



ステップ5:Rulesセクションの下で、Create a new Ruleを入力します。このルールは、内部ネットワーク内のホストが許可されていないDNSサーバにDNSトラフィックを送信しようとするたびに、以前に定義したアクションを適用します。Rule is triggered ifセクションで、Typeを選択し、前述のcustom event createdを選択します。Associated Actionsの下で、以前に設定されたISE ANC Alarm actionを選択します。



4. イベントのトリガー時にStealthwatchが開始したアクションに応答するようにCisco ISEを設定します。

Cisco ISE GUIにログインし、Policy > Policy Sets > Choose the Policy set > under Authorization Policy - Local Exceptions > Create new Policyの順に選択します。

• 名前: DNS違反の例外

• 条件:セッション: ANCPolicy EQUALS Quarantine

• 許可プロファイル:DenyAccess

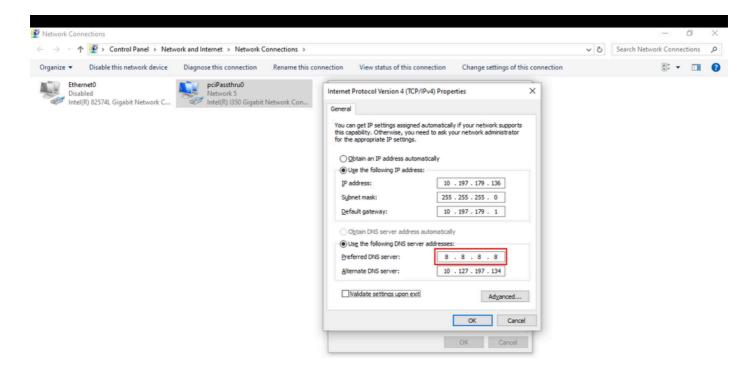




注:この例では、DNS違反イベントがトリガーされると、設定に基づいてユーザへのアクセスが拒否されます

### 確認

使用例を示すために、エンドポイントのDNSエントリは8.8.8.8に変更され、設定されたDNS違反イベントがトリガーされます(DNS違反イベントはトリガーされません)。DNSサーバがMy Corporate DNSサーバのホストグループに属していないため、エンドポイントへのアクセスを拒否するイベントが発生します。



C9300スイッチで、show flow monitor IPv4\_NETFLOW cache | in 8.8.8.8コマンドと出力を使用して、フローがキャプチャされ、フローコレクタに送信されていることを確認します。 IPv4 NETFLOWは、スイッチ設定で設定されます。

#### <#root>

IPV4 SOURCE ADDRESS:

10.197.179.136

IPV4 DESTINATION ADDRESS:

8.8.8.8

TRNS SOURCE PORT: 62734

TRNS DESTINATION PORT:

53

INTERFACE INPUT: Te1/0/46
IP TOS: 0x00
IP PROTOCOL: 17
tcp flags: 0x00
interface output: Null
counter bytes long: 55
counter packets long: 1

timestamp abs first: 10:21:41.000 timestamp abs last: 10:21:41.000

Stealthwatchでイベントがトリガーされたら、Monitor > Security Insight Dashboardの順に移動します。

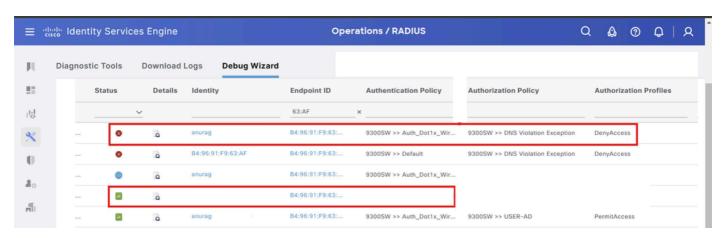


Monitor > Integration > ISE ANC Policy Assignmentsの順に移動します。

Cisco Secure Network Analyticsが、ホストを検疫するためにPxGridおよびCisco ISEを介して Adaptive Network Control Policyを正常に実装していることを確認します。

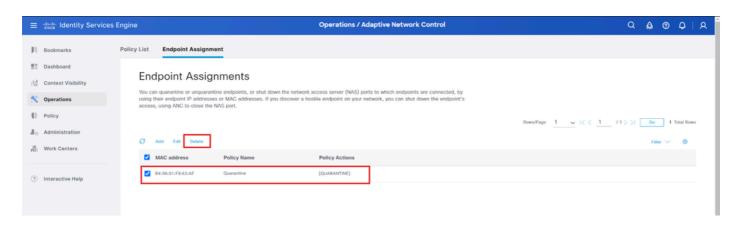


同様にCisco ISEで、Operations > RADIUS > Livelogsの順に移動し、エンドポイントにフィルタを適用します。



ローカル例外ポリシーDNS Violation Exceptionに従い、認可変更(CoA)がISEによって発行され、エンドポイントに対するアクセスがISEによって拒否されます。

エンドポイントで修復操作が実行されたら、Operations > Adaptive Network Control > Endpoint Assignments > Delete の順に選択し、MACを削除してエンドポイントのMACアドレスを削除します。



Cisco ISEのログ参照。

Cisco ISEのpxgrid(pxgrid-server.log)コンポーネントの属性がTRACEレベルに設定されている場合、ログはpxgrid-server.logファイルに表示されます。

```
<#root>
DEBUG [pxgrid-http-pool5][[]] cpm.pxgrid.ws.client.WsIseClientConnection -:::::617fffb27858402d9ff9658
RUNNING
", "policyName":"
Quarantine
"}
TRACE [WsIseClientConnection-1162][[]] cpm.pxgrid.ws.client.WsEndpoint -:::::617fffb27858402d9ff9658b8
command=SEND
,headers=[content-length=123, trace-id=617fffb27858402d9ff9658b89a29f23, destination=/topic/com.cisco.i
TRACE [pxgrid-http-pool2][[]] cpm.pxgridwebapp.ws.pubsub.StompPubsubEndpoint -:::::617fffb27858402d9ff
TRACE [pxgrid-http-pool2][[]] cpm.pxgridwebapp.ws.pubsub.SubscriptionDistributor -:::::617fffb27858402
TRACE [sub-sender-0][[]] cpm.pxgridwebapp.ws.pubsub.SubscriptionSender -:::::617fffb27858402d9ff9658b8
DEBUG [RMI TCP Connection(1440)-10.127.197.128][[]] cpm.pxgrid.ws.client.WsIseClientConnection -:::::e
SUCCESS
","policyName":"
Quarantine
"}
TRACE [WsIseClientConnection-1162][[]] cpm.pxgrid.ws.client.WsEndpoint -:::::ef9ad261537846ae906d637d6
command=SEND
,headers=[content-length=123, trace-id=ef9ad261537846ae906d637d6dc1e597, destination=/topic/com.cisco.i
TRACE [pxgrid-http-pool5][[]] cpm.pxgridwebapp.ws.pubsub.StompPubsubEndpoint -:::::ef9ad261537846ae906
TRACE [pxgrid-http-pool5][[]] cpm.pxgridwebapp.ws.pubsub.SubscriptionDistributor -:::::ef9ad261537846a
TRACE [sub-sender-0][[]] cpm.pxgridwebapp.ws.pubsub.SubscriptionSender -:::::ef9ad261537846ae906d637d6
SUCCESS
", "policyName":"
Quarantine
"}
```

# トラブルシューティング

隔離されたエンドポイントが認証を更新しないポリシー変更後

#### 問題

ポリシーの変更または追加のIDが原因で認証に失敗し、再認証は行われません。認証が失敗する

か、または問題のエンドポイントが引き続きネットワークに接続できない。この問題は、ユーザロールに割り当てられたポスチャポリシーに従ったポスチャ評価に失敗したクライアントマシンで頻繁に発生します。

#### 考えられる原因

認証タイマー設定がクライアントマシンで正しく設定されていないか、または認証間隔がスイッチで正しく設定されていません。

#### 解決方法

この問題には、次のようないくつかの解決策があります。

- 1. Cisco ISEで指定したNADまたはスイッチのセッションステータス要約レポートを確認し、 インターフェイスに適切な認証間隔が設定されていることを確認します。
- 2. NAD/スイッチでshow running configurationを入力し、インターフェイスに適切な authentication timer restart設定が設定されていることを確認します。(たとえば、 authentication timer restart 15、authentication timer reauthenticate 15)。
- 3. interface shutdownおよびno shutdownを入力して、NAD/スイッチ上のポートをバウンスし、再認証とCisco ISEでの設定変更を強制します。



注:CoAにはMACアドレスまたはセッションIDが必要なので、ネットワークデバイスのSNMPレポートに表示されるポートをバウンスしないことを推奨します。

IPアドレスまたはMACアドレスが見つからないとANC操作が失敗する

エンドポイントに対して実行するANCoperationは、そのエンドポイントのアクティブセッションにIPアドレスに関する情報が含まれていないと失敗します。これは、そのエンドポイントのMACアドレスとセッションIDにも適用されます。



注:ANCを使用してエンドポイントの承認状態を変更する場合は、エンドポイントのIPアドレスまたはMACアドレスを指定する必要があります。エンドポイントのアクティブセッションでIPアドレスまたはMACアドレスが見つからない場合は、「No active session found for this MAC address, IP Address or Session ID」というエラーメッセージが表示されます。

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版(リンクからアクセス可能)もあわせて参照することを推奨します。